

阿蘇くじゅう国立公園

草原

阿蘇カルデラは世界的に見ても最大級のカルデラの 1 つです。総面積 380 km²を擁するこの独特の景観は山々と草原から成り立っています。阿蘇カルデラの草原はおよそ総面積 200 km²に及びます。これら草原は湿地帯、牧草地、茅の原、沼地などから成る原生地帯や準天然地帯、そして草木が人手によって植えられた人工的地帯から成り、カルデラの独特な特徴を生み出しています。

この公園の立地および独特の気候のため、草原は多様な植物、動物を育むことができます。この一帯は 600 種以上の植物、盛んな牧畜や農耕業（地域の人々の特定の目的に合わせているため）、貴重な水資源が共存しています。この地域は「数千年前からの草原」として知られていますが、大地の地質学的研究では、少なくとも 10,000 年もの間、草原は人の手によって開墾され維持されて来たことが証明されています。

くじゅう連山のふもとに広がる久住高原も、どこまでも広がる草原の風景で知られています。このエリアの土は、過去の火山活動によって発生した火砕流堆積物で形成されており、ここでススキやその他の高い草が多く生えています。

草原の維持管理の方法としては、放牧や草の刈り取り、野焼きと呼ばれる春に野に火を放つ作業などがあります。こうして草原を維持しなければ草や藪がこの土地に侵入し草原は森へと姿を変え、その豊かな自然は失われてしまいます。